

声に乗せて伝える心

◎朗読ボランティア「かりん」、「宮守」

「目の不自由な人たちに、声の広報を届けよう」。
平成十二年春に活動を始めた二つの朗読ボランティア。
毎月、声とともにたくさんの真心をテープに吹き込んでいます。

広

報四月号が発行された四月三日の午後。市民センターの会議室からは明るい声が聞こえてきます。

集まっているのは「朗読ボランティアかりん」(奥寺恭子会長、会員十人)の皆さん。翌週に控えた「声の広報」の収録に向け、読み合わせをしています。

「かりん」は、平成十一年十一月に開かれた「朗読ボランティア養成講座」の修了生を中心に、十二年四月に発足。以来、毎月広報遠野を全ページ朗読し、市内に住む目の不自由な人など六世帯に録音テープを送り届けています。

「みんな、孫に絵本を読んであげたいとか、声を出すことが好きだからと受講した人たちがばかり。初めはわたしたちの声できちんと伝わるのだろうかと不安でした」と奥寺会長。十三年十一月からは、「声の広報」が遠野テレビで放送されることにな

り、活動は追い風に。専用のスタジオや機材を使うことで、収録環境は大幅に向上。また、お茶の間での放送は、「茶わん洗いながら広報を開ける」と主婦の評判も上々です。「ここに来て、みんなで世間話をするのも楽しみの一つ。今月も元気にできた幸せを感じながら活動しています」。奥寺会長は充実した表情を浮かべます。



遠野テレビスタジオで「声の広報」の収録する朗読ボランティアかりんの山賀洋子さん

朗

朗読ボランティア宮守(河野美智子会長、会員八人も、養成講座への参加をきっかけに十二年六月に発足。広報のほか、市議会だより、新聞のコラムや全国各地の昔話を収録したテープを、市内の八世帯に送り届けています。毎月二十本以上にも及ぶ広報遠野読み合わせと収録は、それぞれ一日掛かり。それでも、会員の皆さんは「苦労と感じたことはない」と笑顔を見せます。

年に一度は利用者との交流会を開いていて、利用者の率直な感想にも耳を傾けています。会の結成から今年で九年。一度も欠かすことなく「声の広報」を送り届けてきました。「読むことが好きだから、これまで続けてこれたんでしようね。楽しみに待っていてくれる人がいるかぎり、これからも頑張りたい」と、河野会長は意欲を見せています。



【MEMO】
(写真上)
●朗読ボランティア「かりん」
奥寺恭子会長
会員/10人
連絡先/☎2254

(写真下)
●朗読ボランティア「宮守」
河野美智子会長
会員/8人
連絡先/☎3315

地域の宝を見守る心

◎見守りボランティア「みまもり隊」

地域の宝である子どもたちを、事件や事故から守る「みまもり隊」。雨の日も、風の日も、雪の日も、子どもたちを、優しいまなざしで見守っています。



子どもたちと通学路を一緒に歩き、安全を見守る奥友隊長(後列右)と佐藤和彦さん

交

差点は、きちんと右見て、左見て渡るんだよ」
びかびかのランドセルを背負った子どもたちの後ろから、優しく声を掛ける「みまもり隊」(奥友敏彦隊長、隊員十九人)。

同隊は、シルバー人材センター会員有志によるボランティアです。近年、子どもが巻き込まれる事件や事故が全国的に相次ぐ中、「地域の宝である子どもたちを守る」と、平成十八年一月に活動を開始しました。現在は、遠野小と遠野北小一年生の下校時に付き添い、通学路の見守り活動をしています。

奥友隊長は「若いころは地域のいろんな人にお世話になり、現在もシルバー人材センター会員として、地域の人たちからさまざまな仕事をいただいています。ほんの少しでも恩返しすることができればと思つてね」と活動のきっかけを話します。

市内では、スクールガードや保護者などが、下校時の見守り活動を展開していますが、自宅の前まで送り届けるのは、市内はもとより県内でも珍しい取り組み。

午後一時三十分。この日の一年生の下校時間に合わせて、隊員が続々と集まります。隊員たちは帰宅経路ごとに分かれ、子どもたちとそれぞれ別の方向に歩き始めます。交差点や駐車場の出入り口など、危険な個所には目を配り、時には子どもたちに教えながら歩きます。

学校を出発してから、最後の子どもを送り届けるまではおよそ二キロの道のり。「今日は何の勉強してきたの」、「給食は全部食べた?」などと学校の様子を聞いたり、ときには足し算や引き算の問題を出したりするなど、子どもたちとの会話も弾みます。自宅の前で出迎えるお母さんたちは、子どもたちの元気な姿に「これだけの距離を通学するのは、子どもにとっても親にとっても初めてのこと。こうして見守ってもらえるのはとても安心です」と笑顔で話します。

「大雨の日や、吹雪の日もあったけど、この活動が大変だと思つたことは一度もないよ。子どもとの会話も楽しいし、自分の健康づくりにもなるしね」と隊員の佐藤和彦さん。

遠

野警察署生活安全課、佐々木憲親課長は「市内では不審者による大きな事件は起きていませんが、児童・生徒への声掛け事例は毎年報告されています。警察署員が見守りできる範囲にも限りがあり、地域の人たちによるこうした見守り活動は、犯罪や事故の抑止に大きな効果をもたらしています」と話します。

「買い物に行く途中の人や、犬の散歩をする人、ジョギングをする人など、子どもの見守りは誰にでもできるんです。地域全体で見守る意識を持つてもらえればいいですね」と奥友隊長は期待を込めます。



【MEMO】
●見守りボランティア「みまもり隊」
隊員/19人
代表・連絡先/
奥友敏彦隊長(組)
遠野市シルバー人材センター ☎0577

保護者に聞きました



小野寺裕子さん(六日町)

4月に引っ越してきたばかりなので、子どももわたしもまだ知らない場所が多く、不安がありました。自宅の前まで送り届けてもらえるのは安心です。みまもり隊の皆さんと触れ合えることで、地域のつながりを感じられるのもいいですね。

利用者に聞きました



菊池守さん(宮守町下宮守)

朗読ボランティアの活動が始まった時から、テープを聞いています。マッサージの仕事をしているのですが、お客さんとの会話はもっぱら地元の話。「声の広報」で地域のあらゆる情報を知ることができるのは、とてもありがたいです。